

学修ベンチマークルーブリック（評価基準表）2022～

DP	学修成果	項目	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
(1) 知識理解と実践力	①豊かな人間性と広い見識	豊かな人間性	芸術文化に親しむことができる。	芸術文化における豊かさの視点が分かる。	芸術文化についてさらに調べたり、深めたりすることができる。	芸術文化あるいはその豊かさにより、自己を高めることができる。
		広い見識	ニュースやドキュメンタリー番組に興味を持つ。	人文科学、社会科学、自然科学等のいくつかについて興味を持つ。	興味のある分野について調べたり、深めたりすることができる。	調べたことを他者に伝えたり、他者の意見を聞いたりして見識を広めることができる。
		社会人としての倫理	時間を守る、服装、態度など、社会人としての基本がわかる。	社会人としての基本的態度を身につけている。	上司や顧客など目上の人に対して、正しい言葉遣いで、挨拶と説明ができる。	独善的にならず、職場の同僚（教職員）と柔軟に協調できる。
	②教育・保育に関する専門的知識・技能と教育的実践力	専門的知識	専門的知識のいくつかを学んでいる。教育保育の視点が分かる。	専門的知識の一定量を身につけている。教育保育の事象の全体像が分かる。またその説明ができる。	専門的知識を身につけている。教育保育の事象の背景や意味が分かる。またその説明ができる。	専門的知識を十分身につけている。教育保育の事象の今後の課題が分かる。またその説明ができる。
		専門的技能	専門的技能のいくつかを学んでいる。教育保育の現場で求められる技術のいくつかができる。	専門的技能の一定量を身につけている。自分なりの実演ができる。	専門的技能を身につけている。教育保育の現場で活かすことができる。	専門的技能を十分身に着けている。教育保育の現場で求められる仕事をこなすことができる。
	(2) 汎用的能力	③専門職としての論理的思考力、情報技術活用能力	論理的思考力	学んだこと、考えたことについて論理的に説明できる。	課題に対して文献資料を使いながら、論理的に考察できる。そのことを説明できる。	課題に対して、文献資料を使いながら考察し、自分の答えを導き出せる。またその説明ができる。
情報技術活用能力			情報技術の基本的な使い方が分かる。	情報技術の活用の仕方が分かる。	教育保育の課題に際して情報技術を活用できる。	社会生活で求められる課題の解決に際して情報技術を有効に活用できる。
④教育・保育現場で求められる表現力・コミュニケーション力		コミュニケーション力	他者と会話や雑談ができる。	異なる意見の他者と対話ができる。他者の意見を受け止めることができる。	異なる意見の他者と議論し、共有できる箇所について合意を得ることができる。	他者とともに課題に取り組み、一定の成果を出すことができる。
		表現力	適切な声量で、自分の考えを表現できる。	抑揚をつける、身振り手振りを加える等、表現を工夫することができる。	物語や複雑な世界について、感情を込めて表現することができる。	保育教育の現場で、子どもたちを感動させることができる。

DP	学修成果	項目	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
(3) 態度・志向性	⑤教育者・保育者としての使命感と教育的愛情	使命感	教育職・保育職の主な仕事内容、役割が分かる。	身なり、言葉遣い、生活態度が、教育者保育者として適している。	必要な場面で子どもを注意することができる。	子どもの将来を考えて声をかけることができる。
		学び続ける姿勢	自分の経験や学びを冷静に振り返り、課題を自覚することができる。	子どもとかかわろうとする。またそこから学ぶことができる。	他者のアドバイスに耳を傾け、批判されても受け入れることができる。	社会の変化について自ら進んでとらえ、それに対応しようとする。
		教育的愛情	親しみをもった態度で子どもと接することができる。	子どもの思いや悩みを受け止め、寄り添うことができる。	クラスの子どものバランスよく、公平に接することができる。	いくつかの目標に向けて、子どもを励まし支えることができる。
	⑥地域社会の一員としての自覚	地域参加	地域社会の重要性が分かる。教育保育と地域社会との関連性について説明できる。	保護者や地域住民に声をかけ、温かな会話ができる。	保護者や地域住民とかかわり、教育に関する課題を見出すことができる。	地域の行事や活動に参加し、発展に向けて行動することができる。
(4) 総合的な学修経験と創造的思考力	⑦グローバルな視野	グローバルな視野	世界の諸課題の全体的傾向が分かる。	世界の諸課題についていくつかの具体的な事例が分かる。	世界の諸課題の背景や意味が分かる。	世界の諸課題についての解決策を提案できる。
		葛藤解決力	人々の意見の違い、考え方が多様であることが分かる。	多様な意見の者同士が共に活動することの難しさがある。	対立や葛藤の原因や仕組みを理解することができる。	対立や葛藤の解決に向けて努力することができる。
	⑧創造的思考力と実践力	創造的思考力	授業や活動について、その良い点や課題について考えることができる。	多様な教育実践のあり方が分かる。	豊かな学びがどのようなものか分かる（子どもの姿について）。	豊かな学びに向けて、アイデアを出し、よりよい指導計画を立案できる。
		実践力	子どもたちと一緒に学んだり、遊んだりすることができる。	子どもの質問に適切に答えたり、子どもの声に反応したりしながら活動ができる。	問題提起したり、新しい視点を示したりしながら子どもの活動を導くことができる。	子どもに課題を与え、適切な環境や時間を用意した上で様子を見守ることができる。